

「実務実習記録」を用いた情報の共有について

日本薬学会薬学教育改革大学人会議
実務実習指導システム作り委員長
中村明弘（昭和大学薬学部教授）

日本薬学会薬学教育改革大学人会議の実務実習指導システム作り委員会では、実務実習の全期間を通して学生、指導薬剤師、大学教員の三者が情報共有でき、また実習中の学生の成長を確認できるような“記録”のあり方について検討を重ねてきました。まず“記録”の名称については、“ポートフォリオ”という用語がまだ普及していない現状を考慮して「実務実習記録」と呼ぶことにしました。「実務実習記録」の様式については大学や地区単位で準備が進められていますので、本委員会では平成21年8月に「実務実習記録」の記載項目と作成プロセスを例示としてまとめ公表しました (<http://www.pharm.or.jp/kyoiku/jjkiroku.pdf>)。そこで、本会議では実務実習中に指導薬剤師と大学教員が情報を共有するツールとして、本委員会が提案している「実務実習記録」とその作成プロセスを紹介させていただきます。

「実務実習記録」作成プロセスの例示

ステップ1：実務実習事前学習の開始直前

- 大学は“実務実習事前学習”から“実務実習”が開始するととらえて、“実務実習事前学習”の開始直前に「実務実習記録」の作成を開始します。
- 個々の学生が実務実習期間中を通して指導を受ける教員をここでは“学生担当教員”と呼び、学生担当教員は“実務実習事前学習”開始前に決めます。
- 「実務実習記録」には学生の自己紹介欄を設け、学生は担当教員と面談を行いながら自己紹介欄に記入します。
- “自己紹介欄”の記載項目（*を付けた項目は必須）
 - ・【学生データ】として記入する事項
 - 氏名*
 - 生年月日
 - 現住所、帰省先
 - 連絡先住所：大学とする*
 - 連絡先：学生担当教員（学生の連絡先を把握しておく）・大学実務実習窓口（事務室など）*
 - ・【自己紹介等】として記入する事項
 - 自己紹介
 - 4年次までの学習について
 - ◆好きな分野：コース（領域）ユニット（科目）など
 - ◆所属研究室
 - ◆総合薬学研究（卒業研究）のテーマ
 - 将来の希望
 - 実務実習事前学習に対する気持ち、想い、希望など

○ 実務実習事前学習に対する“学生個人としての目標”

実務実習モデル・コアカリキュラムのSBOsとは別に、個人としての目標を設定します。

ステップ2：実務実習事前学習中

- 事前学習中の「実務実習記録」の作成や学生担当教員の果たす役割については、各大学が今年度
に実施した取り組み内容を積極的に公表し、効果的な取り組みが次年度以降に普及していくことが
期待されます。
- 本委員会が提案する事前学習中の「実務実習記録」の活用方法を例示として以下に紹介します。
 - ・ 学内で実施する事前学習中も学生は「実務実習記録」として日誌、週報などを書きます。
(日誌、週報の記載項目例はステップ5参照)
 - ・ 学生担当教員は定期的に学生の成長を日誌や週報などで確認し、必要なフィードバック(形成的
評価)を行います。
 - ・ “学生個人としての目標”に対する到達度についても事前学習の途中で確認します。
 - ・ 事前学習中から学生が日誌や週報を書き、学生担当教員が定期的に成長を確認することで、病院・
薬局での実務実習中の担当教員による指導が円滑に実施されることが期待できます。
 - ・ 事前学習中の「実務実習記録」に日誌や週報が加われば、実習施設の指導薬剤師は当該学生の事
前学習中の成長過程を確認することができます。

ステップ3：実務実習事前学習の終了後

- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入します。
(あるいは、学生が記入後、担当教員と面談します)
 - 事前学習における“学生個人としての目標”への到達度
 - 事前学習で成長したこと、今後の課題など
 - 目指す薬剤師像(どのような薬剤師になりたいか?)
 - 次の実習(病院あるいは薬局実習)に対する気持ち、想い、希望など
 - 次の実習(病院あるいは薬局実習)における“学生個人としての目標”
- 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員とともに確認しながら記載します。
 - 学生の健康に関して
 - ◆ 健康診断記録(実施日、特記事項)
 - ◆ 予防接種・免疫学的検査の記録
 - ◆ その他の特記事項
 - 加入保険について
 - ◆ 損害賠償保険
 - ◆ 傷害保険
 - 守秘義務に関する誓約書*
 - ◆ 「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局等の法人機密情
報の保護に関する説明文書」
 - ◆ 「病院・薬局等における研修等の誠実な履行、個人情報の保護、病院・薬局等の法人機密情
報の保護に関する誓約書」

- 「実務実習記録」に「担当教員からの病院実習・薬局実習に対する希望・期待」などの欄を設け、大学教員から学生および指導薬剤師に向けたメッセージを記載します。

○担当教員からの病院実習・薬局実習に対する希望

例) 事前学習において特に優れていたところ、あるいは少し不得手なところを指導薬剤師に伝え、実習スケジュールや内容の検討を依頼

ステップ4：「実務実習記録」を用いた指導薬剤師と大学教員の打合せ

- 実習が開始するまでに、学生担当教員は「実務実習記録」を利用して指導薬剤師に学生を紹介します。
 - ・指導薬剤師は学生の自己紹介欄や事前学習の記録を確認することにより学生について事前に情報を得ることができます。
 - ・学生担当教員は大学および学生個人の実習に対する希望を指導薬剤師に伝え、実習内容について確認します。
 - ・実習スケジュールを調整し、スケジュール表を「実務実習記録」に追加します。
- 学生担当教員は指導薬剤師に実習中の「実務実習記録」への記入やフィードバック方法について説明します。
- 実習施設独自の注意点があれば、「実務実習記録」に記載します。

ステップ5：病院実習あるいは薬局実習中

- 「日誌」：学生は実習中の成長記録として日誌（A4用紙一枚程度）を書きます。

【日誌記載項目】

- 「一日の目標」：前日の実習の反省に基づく学生個人としての目標を記入
- 実習内容
- 実習内容が該当するSB0s（指導薬剤師が毎日確認する必要はなし）
- 「一日の目標」の達成状況、大切だと思ったこと、気づいたことなど。
- 指導薬剤師からのコメント

※指導薬剤師からのフィードバック内容を学生が記入することも有効と考えられます。

- 「週報」：学生は実習中の“評価”に関する記録として週報を書きます。
 - ・一週間を振り返っての実習進捗状況と自己評価を記入し、指導薬剤師と大学教員が確認します。

【週報記載項目】

- 実習内容
- SB0s 到達度
 - 学生自己評価：目標到達度の記録とコメント
 - 指導薬剤師による評価：目標到達度の記録とコメント
- 学生担当教員からのコメント

- 病院実習あるいは薬局実習における“学生個人としての目標”への到達度を確認します。
 - ・個々の学生のニーズに応じた実務実習を実施するために重要です。
 - ・例えば、4週目や8週目に「実務実習記録」に記載し、指導薬剤師と学生担当教員が確認してフィードバックします。

ステップ6：病院実習あるいは薬局実習の終了時

➤ 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入します。

（あるいは、学生が記入後、担当教員・指導薬剤師と面談します）

- 当該実習における“学生個人としての目標”への到達度
- 当該実習で成長したこと、今後の課題など
- 目指す薬剤師像（どのような薬剤師になりたいか？）
- 次の実習（病院あるいは薬局実習）に対する気持ち、想い、希望など
- 次の実習（病院あるいは薬局実習）における“学生個人としての目標”

ステップ7：次の実務実習の開始前と実習中

➤ 上記のステップ4とステップ5を繰り返します。

- ・ 学生担当教員は「実務実習記録」を利用して、これまでの学生の学習進捗状況を次の実習の指導薬剤師に伝えます。
- ・ 指導薬剤師は、学生の自己紹介欄、実務実習事前学習の記録、先に実施された薬局あるいは病院実習の記録を確認することにより、学生のこれまでの成長と本実習に対する目標などを確認できます。

ステップ8：実務実習の終了時

➤ 「実務実習記録」の以下の項目について、学生は担当教員と面談を行いながら記入します。

（あるいは、学生が記入後、担当教員・指導薬剤師と面談します）

- 当該実習における“学生個人としての目標”への到達度
- 当該実習で成長したこと、今後の課題など
- 目指す薬剤師像（どのような薬剤師になりたいか？）
- これからの学習に対する気持ち、想い、希望など

以上のようなプロセスで作成された「実務実習記録」は、実務実習事前学習から病院・薬局での実務実習を通じた学生の成長記録となり、実務実習の“評価”に用いることも可能です。「実務実習記録」は紙媒体だけでなく、インターネットを利用した電子媒体も準備されています。「実務実習記録」を指導薬剤師と大学教員の情報共有ツールとしてぜひご活用ください。